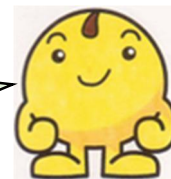


高品質・安定生産に向け、中耕・培土や排水対策、雑草対策を徹底しましょう。



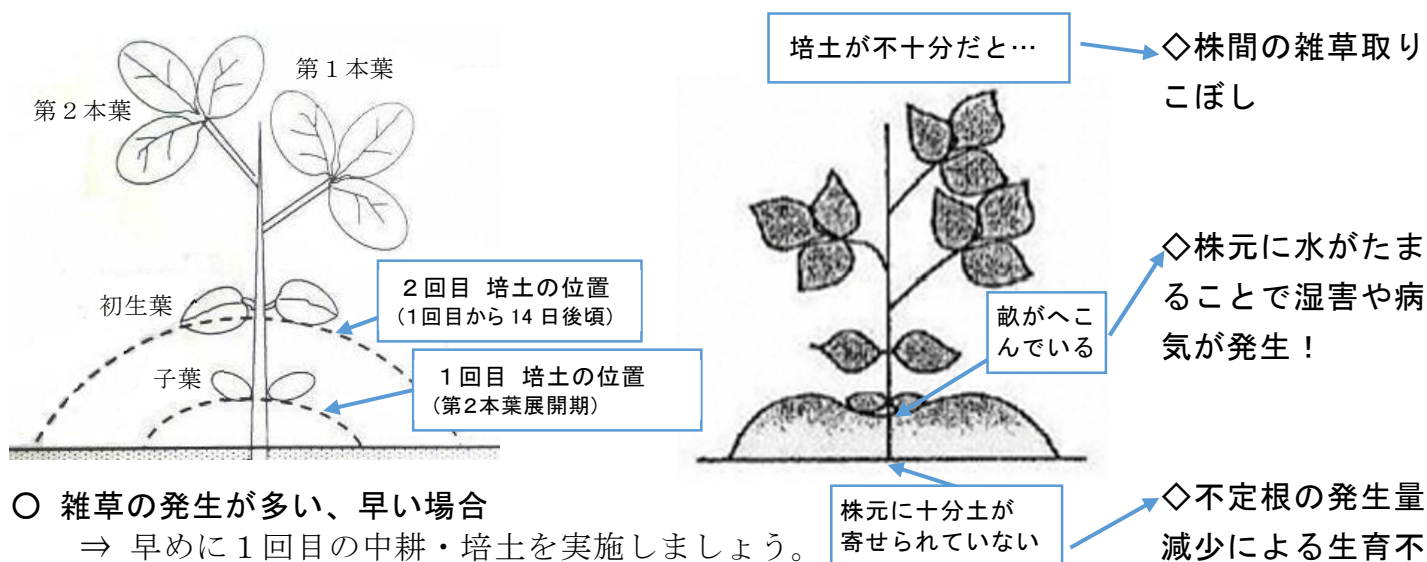
## 1 中耕・培土のめやす

○ 中耕・培土は湿害や倒伏、雑草害の軽減に加え、大豆自体の生育を促進する重要な管理作業なので遅れずに行いましょう！

	大豆の生育	播種後日数	時期		培土の位置
			5/30 播種	6/10 播種	
1回目	本葉2枚目展開頃、主茎長12～15 cm	20～25 日後	6/19～24	6/30～7/5	子葉節まで
2回目	本葉5枚目展開頃、主茎長(地際から)20～30 cmくらい	35～40 日後	7/4～9	7/15～20	初生葉節まで

## 2回目の培土は、開花期前（7月20日頃）までに終了しましょう

- ・開花期以降の中耕・培土は、根の切断による生育へのダメージが大きく、生育抑制や落花・落莢を招く恐れがあります。→青立ちを招く要因になります。
- ・畝立同時播種を行っているほ場でも、中耕の除草効果が期待できるため必ず行いましょう。
- ・止むを得ず1回で終了する場合は、初生葉節の株元まで培土し、雑草を埋没させましょう。



- 雑草の発生が多い、早い場合  
⇒ 早めに1回目の中耕・培土を実施しましょう。
- 作業適期に降雨が続くと予想される場合  
⇒ 可能な限り前倒しで中耕・培土を行いましょう。  
除草剤散布も視野に入れながら適切な雑草管理を行いましょう。
- 出芽が不ぞろいの場合  
⇒ 中耕・培土は、生育の早い大豆に合わせて行い、培土の高さは低めにしましょう。

## 2 排水対策

- 中耕・培土後は、地表水が速やかに排水されるように畦間の溝を周囲明きよと連結し、周囲明きよ内に水が停滞しないように土塊等を取り除くなど、点検・整備を行いましょう。  
注:大雨のあとは、必ず河川等の安全を確認した上で、排水溝の点検・整備を行いましょう。

